

キャラクター名
虎太郎

プレイヤー名

シンドローム	バロール		ワークス	イヌ	カヴァー	マジシャンの助手
	バロール					
オプション			年齢	24	性別	男
覚醒	死	衝動	嫌悪	初期侵食率	33	%
出自	迫害	経験	保護	邂逅	テト	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	0	1	0			1	行動値	8
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	8
精神	4	0	0			4	戦闘移動	13
社会	2	0	0			2	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 動物	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	消費
[09]複製体/チュアリケイト	P	N	
テト	P	N 恐怖	
瀬見 航	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
黒星の門	2	2	メジャー	-	-	-	ピュア	
効果: エンゲージ内攻撃可能、判定+ (Lv+1) D								
死神の瞳	5	3	メジャー	視界	単体	対決	-	
効果: 対象次被ダメージ+ (Lv+2) D								
空間圧縮	1	2	セットアップ	視界	単体	自動	-	
効果: 戦闘移動、Lv回/1S								
赤方偏移世界	1	2	セットアップ	視界	単体	自動	-	
効果: ラウンド間【行動値】+Lv×2、戦闘移動+10m								
コズミックインフレーション	1	2	セットアップ	-	範囲(選択)	-	ピュア	
効果: 組み合わせたエフェクトを範囲(選択)化								
コンセントレイト:バロール	2	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果: C値-Lv								
オーバーウォッチ	1	4	セットアップ	至近	範囲(選択)	自動	-	
効果: ラウンド間+3D、Lv回/1S								
ウィズダムアップ	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 人間と会話可能								
ライブエクスパンド	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 寿命を延ばす								
ディメンションゲート	1	3	メジャー	至近	効果参照	自動	-	
効果: 空間を捻じ曲げ移動								
偏差把握	1	-	メジャー	視界	シーン(選択)	自動	-	
効果: 動向を把握する								
ポケットディメンション	1	-	メジャー	至近	効果参照	自動	-	
効果: 空間作成								
効果:								

とある魔法使いを自称するマジシャンの世話をする柴犬。ニューヨークの市街で暴れていたところを現在の主人に拾われてから、ずっと彼に追従している。気まぐれで主人の宴会芸を手伝ったかと思えば、気まぐれに一月姿を消すことのある猫っぽい習性があり、加えてムスッとした態度で、愛想を振りまくことのないその姿は偏屈で気難しい老人を思わせる。自分を人間以上に優秀で、自分の指揮下に入ることを命令するその不遜さは、傲慢といってもいい。しかしながら、ありとあらゆる方面にだらしない主人の面倒をなんだかんだ見ているため、下等なはずの人間との生活をそれなりに楽しんでいるものと思われる。時々ふらりと姿を消しては、小包を抱えて主人の下に戻ってくる彼は、フリーのイリーガルとして仕事をこなす立派なオーヴァードなのである。

コロラド州の首領としての一生を老衰で終える直前、突然の落雷にあった彼はオーヴァードに覚醒した。得意とするのは覚醒前と変わらずノイマン顔負けな空間把握能力を駆使した群れの統率であり、一度喧嘩を売ったリエンロードの一人であるテトの魔の手から見事逃げ追うせたという伝説によって彼の存在が裏社会に広がった。主人との生活を何より優先する現在ではイリーガルとしての依頼を受けることは少なくなったが、彼の主人へのエサを買わねばならなかった時には、金払いのいい仕事を引き受ける。バロールの能力によって突然現れた犬ころに作戦指示を任せるという構図を気に食わないゴロツキは多いのだが、彼の正体や実力を知った後ではどいつもこいつも静かになる。

彼に恐れていることがあるとすれば、それは主人に自分の正体がばれてしまうことである。オーヴァードに理解があるはずの主人になぜそのことをひた隠しにしているのかはわからない。しかし、彼は裏で行っている仕事を主人に匂わせることも、彼に迫った危機を救ってやったことを誇示することもない。主人のためにたまに身銭を運んでくる、ただの生意気な犬であり続けているのだ。おそらく彼がひた隠しにしたがっているこの真相を主人が動づいているということも織り込み済みで、知らんぷりを続ける彼らの関係性は未だに続いている。